

宇部市民オーケストラ

第13回 気軽にアンサンブル

♪ 日時：2014年7月6日（日）午後2時開演

♪ 場所：ヒストリア宇部 1階イベントホール

♪ 主催ならびに演奏：宇部市民オーケストラ

♪ 後援：宇部市民オーケストラ後援会



本格的な夏の訪れも近い今日この頃ですが、本日は宇部市民オーケストラの「気軽にアンサンブル」にご来場いただきありがとうございます。この「気軽にアンサンブル」は2002年の開始以来10年余りを経過し、毎年この時期の宇部オケの恒例行事となって今回で13回目を迎えました。日曜日の午後のひととき、いろいろな編成の室内楽の響きをお楽しみいただければと思います。

なお、9月7日の宇部市民オーケストラの演奏会「クラシックの午後：気軽にオーケストラ」では、ブリテン、プーランク、といった今まで取組んだことのない作曲家の作品にチャレンジします。こちらも併せてご来場いただきますようご案内申し上げます。

プログラム



1. モーツァルト：クラリネット5重奏曲イ長調K.581より 第1、2楽章
Vn1：安永 恵、Vn2：清水 治子、Va：伊藤 紘二、Vc：栗林 宏明、Cl：向山 尚志
2. ピアソラ：「タンティ・アンニ・プリマ」＜ギター・チェロ2重奏＞
ギター：塩田 万希世（客演）、Vc：藤野 緑
3. シューベルト：弦楽4重奏曲第14番ニ短調「死と乙女」より 第2楽章
Vn1：安永 恵、Vn2：清水 治子、Va：濱野 妙子、Vc：栗林 宏明



◇ ◇ ◇ 休 憩 ◇ ◇ ◇

4. 「ありがとう」（いきものがかり）、「雨のちハレルヤ」（ゆず）＜弦楽4重奏＞
Vn1：安永 恵、Vn2：松井 颯子、Va：濱野 妙子、Vc：藤野 緑
5. シュポア：9重奏曲へ長調作品31より 第1、2楽章
Vn1：河村 真理子、Va：濱野 妙子、Vc：藤野 緑、Cb：藤野 隆、
Fl：村田 恭子、Ob：宗國 敦子、Cl：向山 尚志、Fg：伊藤 浩太、Hr：福田 誠
6. ホルスト：セントポール組曲作品22-2（弦楽合奏）
Vn1：安永 恵、池田 芳江、松井 颯子、長谷部 透 Vn2：清水 治子、佐貫 政彰、長岡 祥
Va：濱野 妙子、伊藤 紘二、上野 明弘、吉本 宗明 Vc：藤野 緑、栗林宏明、佐伯真理子、Cb：藤野 隆

♪♪♪ 曲目紹介 ♪♪♪

1. モーツァルト：クラリネット5重奏曲イ長調 K. 581 より 第1、2楽章

弦楽4重奏にクラリネットが加わった5重奏で、モーツァルトが友人で当時のウィーンのクラリネットの名手アントン・シュタットラーのために作曲しました。オーケストラで使われるクラリネットにはA管（イ調）とB管（変ロ調）の2種類がありますが、この5重奏曲はA管の柔らかな響きを活かした室内楽の名曲です。その後、有名なクラリネット協奏曲もシュタットラーのために作曲しています。

2. アストル・ピアソラ：「タンティ・アンニ・プリマ」

この曲はマルチェロ・マストロヤンニ主演のイタリア映画「エンリコ4世」のサントラのうちの1曲として、アルゼンチンタンゴを大きく変えた巨匠、ピアソラが作曲しました。タイトルの「タンティ・アンニ・プリマ」には「むかしむかし」という意味がありますが、別名「アヴェ・マリア」とも言われています。おなじみのタンゴとは違い、優しく郷愁を誘うメロディをチェロとギターの演奏でお楽しみください。

3. シューベルト：弦楽4重奏曲第14番ニ短調 D. 840「死と乙女」より 第2楽章

シューベルト（1797～1828）が健康の衰えを自覚した直後の、1824年に作曲された弦楽四重奏曲。すべての楽章が短調で書かれ、当時のシューベルトの絶望的な心境が垣間見えます。昨年の第1楽章に続き、今回演奏する第2楽章はタイトルの由来ともなった、シューベルトの歌曲「死と乙女」の伴奏を主題とする変奏曲で、まるで死神の行進のように陰気に、憂鬱に音楽が流れます。長調に転ずる時の天国のように清澄な世界はまさにシューベルトを聴く醍醐味です。

4. 「ありがとう」（いきものがかり）、「雨のちハレルヤ」（ゆず）

いずれもNHKの朝の連続テレビ小説で放送された番組の主題歌として広く親しまれている曲ですが、今回は弦楽4重奏でさわやかにお届けいたします。

「ありがとう」：2010年に放送された『ゲゲゲの女房』の主題歌、漫画家の水木しげるさんと奥様のほほえましい愛情が描かれたドラマでしたね。

「雨のちハレルヤ」：2013年10月～14年3月まで放送された『ごちそうさん』の主題歌。大正から昭和にかけて関東・関西の食文化の違いを克服しながら料理と家族に愛情を注ぐヒロインの物語でした。

5. シュポア：9重奏曲へ長調作品 31 より 第1、2楽章

シュポア（1784～1859）はドイツロマン派の作曲家で、交響曲や室内楽曲など数多くの作品を残しているほかバイオリンの名手としても活躍しました。また1813年から1815年にはウィーンのアム・デア・ウィーン劇場の指揮者を務めていて、ベートーヴェンとも親しかったようです。この9重奏曲は弦楽器4つと管楽器5つというかなり大きな編成で、ウィーン風の優雅なメロディが様々な楽器で展開され、その音色の組合せを楽しんでいただければと思います。

6. ホルスト：セントポール組曲作品 22-2

「惑星」で有名なホルスト（1874～1934）は、近代英国音楽を代表する作曲家。1905年からロンドンのセントポール女学校の音楽教師となったホルストは、教鞭をとる傍ら作曲を続けており、1912年に防音装置を備えた専用の部屋を与えられました。そのことに対して感謝の意を表して女学校の弦楽オーケストラのために作った曲がこの「セントポール組曲」です。ホルスト中期作品にあたるこの曲は、イギリス民謡をふんだんにとりこみながらも、時に非西洋的な要素を織り込むなど、色彩豊かで親しみやすい曲です。特に終曲では、誰もが知っているあの曲（イギリス民謡）が聞こえてきます。